



Issue on June 1, 2022

もりこう

VOL.52

発行所：大森学園同窓会
大田区大森西3-2-12
大森学園高等学校内
お問い合わせ：TEL 03(3762)7336(代)
FAX 03(3766)0314
Mail：info@moriko-kai.jp
URL：https://www.moriko-kai.jp/
発行責任者：大谷正勝
編集責任者：広報委員会
題 字：山崎正男先生



令和4年度 もりこう会 総会のお知らせ



日時：令和4年7月2日 土曜日
総会：受付 午後3時30分
開会：午後4時～午後5時
会場：母校 大森学園高等学校
駐車場・駐輪場はありません

懇親会は中止と
させていただきます

感染対策にご協力
をお願いします。

マスクの着用

検温



手指の消毒



皆様へ
お願い

風邪の症状等、体調が悪い方は参加をお控え下さい。
マスク着用・手の消毒・検温にご協力をお願い申し上げます。
社会情勢により総会開催が中止になる場合があります。
中止の場合は同窓会ホームページでお知らせ申し上げます。

今回の総会ではオンライン(Zoom)を試験的に活用し開催致します。
オンライン(Zoom)での参加ご希望の方は同窓会メールアドレスにご連絡をお願い申し上げます。info@moriko-kai.jp

● ご連絡の期限：6月30日木曜日 IDとパスワードを返信させていただきます。

同窓会活動とデジタル化について

もりこう会 会長 大谷正勝



感染者であることが判明しました。その後全国各地で感染者数が急増し、なかでもオミクロン株罹患患者数の割合が急拡大したことはご承知のとおりです。
長引くコロナ禍は私達の働き方や暮らし方に種々の影響を与え、様々な変革を迫っています。

すでに働き方の1つとして場所、時間の制約を受けずに自宅などで仕事に携わるテレワークやモバイルワークが多くの企業等で取り入れられており、学び方も学校や研修施設等で対面授業に加えオンライン授業が幅広く取り入れられています。

これらはデジタル技術の活用に向うところが大きいわけですが、現下の状況に鑑みるとこの技術の活用は多方面で更に加速度を増すのではないのでしょうか。

同窓会活動においても例外ではなく、本会では役員会の開催通知、出欠確認、会員からの異動届の受理など、さらに会報制作時の執筆者や印刷会社と役員との連絡など、既に様々な面でインターネットの活用には舵を切っています。インターネットは私達の日常生活に深く関り

近年は利用領域も広がり様々な場面に使われる不可欠なインフラ（社会基盤）であり、会員の皆様も生活に仕事に広く利用されているのではないのでしょうか。また昨年

コロナ禍に覆われて足かけ3年となり依然として厳しい状態が続いておりますが、会員の皆様は如何がお過ごしでしょうか。
令和2年度、3年度の通常総会は、この状況に鑑みてやむを得ず開催中止としました。この経緯から4年度は是が非でも総会開催を合言葉に、昨年11月準備活動に入りました。
当時コロナ感染者数は毎日に減少しており、この傾向が継続すれば開催に繋がるのではと期待した次第です。ところが12月に入ると、これまでのものより感染を広げる力の高い変異株オミクロン株の出現が伝えられ、間もなく都内でもその感染者の存在が確認されたとの発表がありました。
年明けの3日には都内新規感染者は103人に上り、その多くがオミクロン株

からは役員会へZOOMでの参加を了とし、ひとりでも多く議論に加わってもらおうこととしました。

とは申しても、本会のデジタル化はまだ緒に就いたばかりです。これからも様々な事例を参考に役員会などで検討のうえ、必要に応じて取り入れていきたいと思っております。

一方、通常総会並びに懇親会の開催等は会員相互の親睦、情報交換など会の目的に

沿う活動に繋げるには、会員が集い年齢世代を超えて交流するところに意義があると考えます。

そのためにも昨今のオミクロン株罹患者の減少傾向は安堵するところではありますが、今暫くその推移を見極め開催の可否を判断したいと思っております。

最後になりましたが、会員各位のご健勝とご活躍を祈念申し上げ会長挨拶といたします。

理事長 米澤止倫先生にお会いしました！



会報51号に続いて今号も米澤先生のお写真を一枚撮らせて頂きました。撮影場所は母校理事長室、初代理事長米澤勇作先生像の前で撮影しました。

令和四年四月十九日
母校理事長室で撮影
広報委員長 渡辺亮



コロナ未だ収まらず

校長 畑澤正一



校や多くの私立学校よりも早くオンライン授業を実施できたのは、計画的な学校運営の成果だと思っています。

生徒にとっては二度と戻らない大切な高校生活ですが、長い人生には山もあれば谷もあります。「禍福は糾える縄の如し」、コロナ禍も自分の人生と受け入れて、できることを積極的に取り組んでほしいと、機会がある度に伝えていこうと思います。尚、生徒の部活動や近況等をホーム・ページにて配信していますのでどうぞご覧ください。

コロナが収束し、日常の生活が戻り、一日も早く卒業生の皆さんとお会いできる日が来ることを楽しみにしています。くれぐれもご自愛ください。

最後に、今後とも本校の教育活動へのご理解とご協力のほど、よろしくお願いいたします。

【追悼】

「もりこう会」役員の須山貴史さんが、昨年12月急逝されたとの訃報を受け取りました。昭和56年3月電気科(田村先生クラス)の卒業生です。私も授業を担当したことがあり、ワンダーフォーゲル部や写真部で活躍している姿が今でも目に浮かびます。卒業後も学校によく顔をだし学校行事の度に写真を撮ってくれたのは一度や二度では

ありません。新校舎竣工の際には、ご自身の写真をパネルにして寄贈もしていただきました。現在もパノラマラウンジや会議室前の壁に飾らせていただいております。いつもビールを飲みながら自身が担当するテレビ番組の撮影の様子や野菜や果物づくりの話題で時間があっという間に過ぎていきました。とにかくパワフルで優しい人でした。

た。そんなことが縁で「もりこう会」の役員もお願いすることになりました。若い教え子が突然亡くなるのは言葉がありません。きつと本人も無念であったらうと思います。今ごろは天国で美しい水中写真をたくさん撮っていることでしょう。享年59歳でした。ご冥福をお祈りいたします。

理事 末吉辰先生 育成功労賞受賞

昭和45年機械科卒業



2021年、末吉辰先生が、高校野球の育成と発展に尽くした指導者に贈られる「育成功労賞」(日本高校野球連盟と朝日新聞社)を受賞いたしました。1971年～1994年まで本校野球部監督を務め、1994年～2000年までは部長を務め、2013年5月に本校の理事に就任されて現在に至ります。また、1996年～2004年の間は東京都高野連役員を務め、2004年から同連盟の理事に就任いたしました。末吉先生は去年の選手権大会の抽選会の場で受賞が披露され、その様子はMXテレビでも放映されました。



令和3年度 クラブ活動報告



運動部



野球部

いつも野球部の活動に対しご支援、ご声援を賜り感謝しております。

野球部では令和2年度秋季大会より、指導者の配置変更があり、新体制となりましたのでこの場をお借りして、お知らせします。

部長・和泉隆 (国語科教諭)

監督・石黒隼 (体育科教諭)

副部長・猪狩清 (体育科教諭)

顧問・伊能隆晴 (教頭)

外部トレーナー・本間聖也 (株式会社リーフ)

現在3年生18名、2年生20名、1年生40名の計78名の部員が所属しています。地元大田区出身の選手のみならず、23区外や神奈川県、埼玉県など志高い選手が多く集まっております。

今年度も新型コロナウイルスによる緊急事態宣言で活動に制限がありました。しかし東京都高野連主催の各大会は有観客で開催されました。春季大会ではベスト8に進出し、44年ぶりとなる選手権大会第三シードを獲得しました。新聞や雑誌、ネット媒

体で大きく特集をして頂き、注目される存在となりました。選手権大会はベスト16で敗退となりましたが、昨年の独自大会ベスト4進出など、近年東京で注目される存在となってきました。東京の勢力図を変え、新たな風を吹かせたい。この思いを胸に日々の練習で心身ともに逞しいチームとなるべく精進していきます。

また、卒業後に大学野球や社会人野球を継続する選手も増えてきました。その中でも12月に開催されました、第92回都市対抗野球で東京ガス硬式野球部に所属する竹村光司さん (平成25年度機械科卒) が優勝し、日本一に輝くなど野球界で大きく活躍しています。

今後も卒業生の皆様が誇れる学校・チームづくりのために精一杯戦ってまいります。
●令和3年度春季東京都高等学校野球大会
一回戦 対錦城学園 11-1 (6回)
二回戦 対目黒日大 6-5
三回戦 対日大豊山 2-0 (夏シード獲得)

準々決勝 対二松学舎大付 7-14 (ベスト8)
●第103回全国高等学校野球選手権大会
東京都大会
三回戦 対大島 5-0
四回戦 対立正大立正 7-6

五回戦 対東亜学園 0-10 (ベスト16)

(ベスト16)

●令和3年度秋季東京都高等学校野球大会
一回戦 対田無 10-2 (7回)

代表決定戦 対立教池袋 不戦勝

本大会一回戦 対駒澤大高 10-12

(春季都大会出場決定)

〔顧問 石黒隼〕



サッカー部

第1章 「聖地・西が丘」

「夢」から「目標」へ」

今年度は国体強化校として一次予選をシードされ、2次予選に臨んだ。1回戦2回戦を順当に勝ち上がり、ベスト8を決めた。我々にとってここからが本当の勝負、鬼門のベスト4を掛けた試合は、今シーズン安定した戦いぶりを披露している早稲田実業との対戦となった。格上の相手ではあるが、我々も自信を持って試合に臨んだ。ラウンド8からは日本テレビのライブ配信が入り、会場全体の雰囲気も変化する。例えば4年前、荒天の実践学園グラウンドで帝京相手に先制するも、残り10分で追いつ



かれ、延長の末「西が丘」を逃した。あれからベスト8の壁を破れず、4年越しでのリベンジのチャンスをつ掴んだ。あの日、実践グラウンドは豪雨であったが、この日は晴天、我々の前途が明るく開いている様に感じた。

試合は、常連であり試合巧者の早実が、ロングボールと前線からのプレッシングでウチのストロングを出させないような試合の入り方であった。ボールを保持する能力



動かし方は我々に一日の長があると見立てていたが、こちらも相手に合わせ、リスクを避けた戦い方で相手の様子を伺う立ち上がりとなった。主導権争いをしていく中、ビルドアップのミスが突かれてカウンターをもらい、サイドからのグラウンダーのクロスをドンピシャのタイミングで合わせられて先制点を許す。しかし、その後も慌てることなくゲーム運び、前半終了間際に本校自慢のアタッカー緒方がドリブルで仕

掛けると、相手はたまたまフェールで止め、フリーキックを獲得。キッカー柴崎の右足から放たれたキックは放物線を描いてキーパーとディフェンスラインの間に落ちる絶妙なボールとなった。そこへ河合が飛び込みヘッドで押し込み同点。ハーフタイムでは頼りになる主将齋藤武を中心にまとまり、後半は前半セーブしていた分、ギアを上げて戦う方法を確認。後半は完全に本校が主導権を握りゲームを掌握。自慢の中盤のトライアングル（柴崎、河合、原田）が機能し、そこからトップの齋藤武をターゲットに両ワイドには緒方、立迫の茅ヶ崎コンビのアタッカーが相手ゴールに迫った。しかし相手も強豪早実、最後は体を張った守備で得点を与えない。そんな残り10分を切った頃、相手ディフェンダーの背後に動き出した緒方を狙って高梨から絶妙なノブが上げられる。相手センターバックが何とか頭で触り、ボールがバイタルエリアにこぼれた。そこへ誰よりも早く反応した河合が右足一閃、ゴラツソで相手ゴールに突き刺さった。その後、守ってはディフェンスリーダー若原を中心に、大澤、澤田、今井と若いディフェンス陣が安定した守りを見せ、ついに歓喜の瞬間が訪れた。見事に生徒たちが新たな歴史を塗り替えてくれた。4年前とは残り10分のエネルギーが全く違った。4年間の成長が集約された10分間であった。

11月7日（日）、我々は西が丘のピッチに立った。満身創痍の我々は、決して満足する内容ではなかったが持てる力を全て出し切り、初めての挑戦が終わった。



コロナ禍の中、満足な活動が出来ない状況でしたが、献身的に支えて下さった保護者の方々、学校の先生、生徒たちの応援があり、ここまでたどり着くことができました。この場を借りて、関係各位に御礼申し上げます。何より新しい歴史の扉を開いてくれた3年生全員に感謝したい。

大森学園高校サッカー部の全国選手権への挑戦は第1章が終わった。全国大会出場が「夢」から「目標」に変わるといってお土産を残してくれた。第2章では西が丘での戦いを記したいと思う。齋藤武主将の代の気持ちを背負った次世代が、「国立競技場に立つ!!」

バドミントン部

令和3年度は3年生が15名、2年生が18名、1年生が13名、合計46名の部員数で活動を開始しました。高校入学と同時にバドミントンを始める部員の数の方が圧倒的に多い中で、懸命に練習に取り組んでおります。今年度もコロナ禍ではありますが、感染症対策を徹底しながら、高体連主催の公式戦にも参加をしました。

関東大会予選（2複1単）の結果は、男子は2回戦（vs東京成徳大学高校）敗退、女子は1回戦（vs多摩高校）で残念ながら敗退しました。3年生最後の大会であるインターハイ予選（2複3単）では、男女共に残念ながら1回戦で敗退してしまいました。しかし、男女共に関東大会予選の結果を真摯に受け止めながら約2か月間懸命に練習に取り組むことができ、僅差での敗退でした。

3年生引退後、各部員が積極的に高体連個人戦に申し込み、大会に出場しております。結果がなかなか振るいませんが、自身で考えながら活動に取り組んでいる姿も見られます。部活動を通して、お互いが協力しながら支え合えるような関係を築き上げられるように顧問も伴走、補助していく所存でありますので、今後ともご支援、ご協力どうぞよろしくお願ひ申し上げます。



テニス部



令和3年度は3年生が11名、2年生が8名、1年生が5名で活動しました。2年ぶりに女子生徒が入部しました。全員少しずつ出来ることが増え始めてきており、未経験者も経験者とラリーが出来る様になっています。コロナ禍もあり、なかなか外に出て多くの練習試合を組むことがままなりませんでした。

3年生最後の公式戦では1回戦進出でしたが、なかなか上位に食い込むことがむずかしいですが、頭を使い自分で考え、上級者

相手に工夫をする生徒は少しずつ増えているように感じます。3年生は中でも出来ることを探して、懸命に練習に励んでいた様に思います。互いが互いを成長させ合う関係を作ることが出来ていたらなと考えます。

今後ともご支援、ご協力お願い致します。

男子バスケットボール部



年行われていた親善試合は9月（第7支部私学大会）、2月（大田区大会）を予定していましたが、コロナウィルスの影響で支部大会は中止、大田区大会は延期となりました。練習の内容も昨年度より大きく変更しました。以前は体育館での練習の前に、教室棟や実習棟のスペースをお借りし、筋トレを行っていましたが、体育館での練習のみとしたり、練習時間を短縮して行うなどしました。以前よりも短い練習時間でチームを作っていくことに戸惑いや難しさはありましたが、部員同士切磋琢磨してチーム力を高めていけたと思います。

また、年末にはミーティングを行い、チームの一員として部全体に対してどのように影響を与えていけるかを考える等、部員それぞれが部全体に歩み寄る姿勢を養ってきました。かつ、大掃除を通して、日頃使用している施設に感謝する機会も設けました。

情報があふれているこの時代において、選手各々が主体的に目標に向かって努力できる環境づくりに尽力してまいります。携帯電話で知りたいことをすぐに検索できる世の中ではありますが、我々のチームが持つ課題や解決方法を検索することはできません。部活動に対して真摯に取り組める環境をこれからも作っていきたく思います。実のあるミーティング、練習を通じて個人としての成長とチームとしての成長を図ります。

これからも日々練習を重ね、良い結果を報告したいと思っております。

令和3年度は3年生が6名、2年生が7名、1年生が4名で活動しました。公式戦は4月（関東予選）、5月（IH予選）、10月（新人戦）に3度ありました。例

女子バスケットボール部



顧問：佐藤緑子・小平晃大
部員：令和4年度

3年 / 2名

2年 / 6名 (マネージャー1名)

1年 / 6名

計14名

R3年度大会結果・関東予選3回戦敗退・IH予選2回戦敗退・夏季大会中止・7支部大会中止・新人戦1回戦敗退
顧問より…

ここ2年、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で例年より練習量が半分くらいに

なっている世代です。部員数が少ないため5対5はもちろん、試合想定練習ができません。このような状況の中OGと佐藤が男子バスケット部顧問時のOBが頻りに練習に参加してくれています。選手のモチベーションが保たれ感謝しかありません。
活動時間はまちまちですが週5日体育館で活動しています。バスケット部ではなかつた方も、学校に来た際は体育館まで足を運んでいただき懸命に取り組んでいる部員の様子を是非見に来てください。お待ちしております。



剣道部

令和3年度は2年生3名(男子3名、女子0名)で活動しました。昨年度の4月に入部した生徒は小学校から道場に通っており、即戦力となりました。昨年度の2月に行われた昇段審査会では、式段に昇段しました。他2名については、令和3年度の初

めに1名、夏休みに1名とそれぞれ年度途中からの入部となりました。2名とも初心



者の為、0から剣道を学びました。10月には1級審査会があり、2名とも1級を獲得することができました。2月に行われる昇段審査で初段に挑戦します。

この3名での最初の公式戦は11月の新人大会支部予選団体の部でした。残念ながら1回は中堅として2本先取して勝利し、初心者2名は2本負けでしたが良い経験となりました。

部員が少なく、また剣道場がないという限られた環境で稽古しなければなりません、その中で部員たちは互いに刺激し合い



成長しております。新型コロナウイルスが猛威を振るう中で、思うように稽古ができない日々が続きましたが、防具をつけなくても稽古を中心、感染症対策を講じながら、精神力・技術力の向上に励んでいます。初心者2名は慣れない体捌きに苦



戦し、時には怪我をすることもありますが、勝利という目標に向かって日々鍛錬していただきます。卒業生に稽古に参加していただくことも増え、さらなる成長が期待できます。今後とも応援、ご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

柔道部

新型コロナウイルス感染症が猛威を振るう中柔道部としても感染対策を充分に行い活動してまいりました。柔道という競技特性上、相手との距離が密になるため、コロナの感染状況を考慮し、他校との合同練習を控え、トレーニングやマスク着用での稽古など生徒にとっては苦しい環境の1年だったと思います。先日新しい新型株のオミクロンが確認されまだまだ油断ができない状況が続いています。

4月に行われた関東大会予選では支部ベスト8、東京都大会に進出することができました。学年別大会では都大会に出場したものの1回戦で惜しくも敗退。11月に行わ



れた支部新人戦では、団体戦では2回戦で敗退したものの、個人戦では無段者の部で3位に入賞することができました。来年度新入生を迎え、着実と成長している在校生とともに活躍できる試合をしていきたいと思えます。今後とも応援よろしくお願いたします。



陸上競技部

令和3年度は三年生が六名、二年生が三名、一年生が四名で活動しました。陸上競技には、短距離・中長距離だけではなく、跳躍・投擲・ハードルといった様々な専門種目があります。みな各々の専門種目に分かれながらも、互いに切磋琢磨してきました。コロナ禍においても、細心の注意を払いながら、公式の競技会すべてに出場できました。今年度は、男子やり投げで2名が都大会出場を果たしています。

限られた練習環境の中で、工夫してトレーニングに打ち込んでいました。冬季トレーニングでは、砂浜や近隣の公園まで足を運び、そこだからできるトレーニングやどうすれば練習の質をあげられるか考え、生徒





たちもメニューを作成していました。休日練習では競技場へ足を運び、専門的な技術トレーニングや走持久力を高める練習を取り組みました。

来年度は1人でも多く都大会出場やさらに上位の大会に出場できるように努力していきます。今後ともご声援のほどよろしくお願い致します。



卓球の楽しさを知っている部員ばかりなので、日々楽しく活動しています。昨年度はオープン戦も含め試合に全く参加することができませんでしたが、今年度は関東大会予選・全国高等学校選手権大会予選・新人大会などに参加することができました。

新型コロナウイルス感染予防対策のため部員同士の応援やセット間のアドバイスができない中で、堂々と試合に挑む姿は真摯に練習に取り組んだ証拠であると感じました。中には初の公式戦となる選手もいましたが、

卓球部



待ちに待った対外試合で練習の成果を発揮しました。5回戦まで勝ち上がる選手がいることから、少ない人数でも目標・課題を持って練習すれば結果を残せるのだと示しました。

公式戦後はさらに目標がはっきりとし、各自の課題に合わせた練習を組んでいます。残念ながらほとんど練習する機会が無くなってしまい、早く卓球したいという気持ちだけが大きくなる一方です。練習のない期間に部員たちは資格試験に挑戦するなど自己研鑽を怠らず生活しています。これからも卓球が大好きな部員ばかりの卓球部をよろしくお願いいたします。

女子バレーボール同好会

令和3年度女子バレーボール同好会は、コロナ禍における練習時間の制限がある中で3年生3名、1年生2名でスタートさせた。選手が6人に満たないため、3年生のバレーボール経験者2名が追加で参加することとなった。春の春季大会(4月29日開催)では、3チームのリーグ戦で敗退。次の大会に向けて「1勝でも多く!」という気持ちで、生徒たちは練習に励んだ。3年生の引退がかかる東京都高等学校総合体育大会兼全国高等学校総合体育大会予選兼国民体育大会予選が5月30日に開催された(トーナメント戦)。結果は以下である。

対 都立田柄高校(25-10、25-8)にストレート勝ち

対 都立田園調布高校(13-25、5-25)に負け、2回戦敗退

生徒たちは練習の成果をコートで発揮することができた。私自身、仲間と努力する選手たちの姿に感動した。

3年生引退後、1年生の2名でビーチバレーボールに転向するも、出場資格を得るビーチバレーボール講習会(7月)がコロナ禍で中止となる。

2学期以降、新たに1名が入部した。新人選手権予選大会(11月7日開催)に向けて、お隣の学校である蒲田女子高等学校と合同チームを結成することとなった。結果は負けてしまったが、1年生3人にとって他校の先輩と関わる貴重な経験となっている。

大会終了後、チームとしては初の1年生キャプテンを立て、令和4年度新入部員を受け入れる準備を進めている。経験者はもちろんのこと、バレーボール初心者の方もお待ちしております。



チアリーディング同好会

女子生徒の少ない中、チアリーディング同好会は3年生4名、2年生5名、1年生5名の計14名で活動を行っています。2020年度は新型コロナウイルスの流行により観客の前での発表の場が1度もなかったのですが、2021年度は6月には入試イベント・学園祭での発表、1月には第32回全国高等学校選手権大会に参加することができました。2年生、1年生は初めて観客のいる舞台での演技でしたが演技の後の拍手は忘れることのない思い出になったと思います。特に1月の選手権前には、オミクロン株が爆発的に広がり部活動が活



動中止となる中で、許可をいただき大会に参加することができました。いろいろな不安もありましたがチーム一丸となって大きな会場で2分30秒に思いを込めて思いっきり演技し、無事ノーマスで終えることができました。部員全員が初めての大会参加でしたが、貴重な経験を多くすることを学ぶことができました。

来年度は今年度以上に部員を増やし、体育祭や野球応援などいろいろ参加しさらに活躍の場を広げていきたいと思っております。コロナ禍で明るいニュースが少ないですが、チアリーディング同好会の演技で皆様に少しでも元気づけられるよう一層の努力をしてみたいと思います。今後ともチアリーディング同好会をよろしくお願いいたします。

文化部



美術工芸部

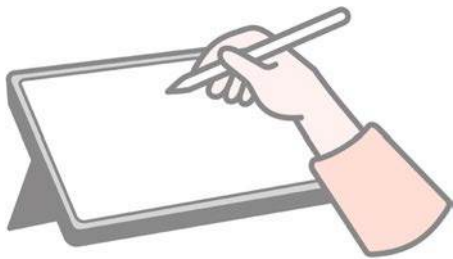
令和三年度の美術・工芸部は、三年生二名と一年生三名の部員計五名で活動しました。前年度に六年ぶりに顧問復帰した教員の二年目でした。今年度もコロナ禍の影響その他により、学園祭を始めとする外部への発信の機会が少ない、限られた活動でしたが、集まった時の和期諳々とした独特の

雰囲気は以前と全く変わりありません。皆さん思い思いに絵を描き、楽しい時間を共有しています。

最近の傾向としては、七宝焼きの希望者がいないため、以前の「美術部」だった頃のイメージに近いこと、他の部活との兼部者がいること、それと全員がiPadを持っているので、その特性を活かして、各人が好きな絵を描いていることなどが挙げられます。

全体をまとめる立場にあった唯一の男子三年生は苦勞もあつたことと思いますが、幸いなことに進路が早い段階で決まり、二学期の最後まで尽力してくれて、非常に助かりました。

普段の学校生活でお弁当を「黙食」するのと同様に、はじめをつけながら静かに創作に励んでいた部員のみなさんが、楽しくおしゃべりをしながら自由に絵を描けるような状況が一日も早く訪れることを願っています。



ブラスバンド部



ブラスバンド部です！2020年度は新型コロナウイルスの流行により、ほとんどの演奏会が中止となってしまいました。加えて、演奏会中止だけに止まらず、満足に活動できない状況が長く続きまして。2021年度も依然としてその脅威にさらされた環境下での一年間でしたが、感染対策を徹底し、少しずつ活動、演奏会ができるようになりました。継続して活動

ができることで、新入生や初心者部員も技術がメキメキと向上し、夏のコンクールではC組での出場ながら銀賞を獲得できました。続く冬のアンサンブルコンテストでは管楽4重奏で出場し、惜しくも銅賞と悔しい結果となってしまいましたが、精一杯準備、演奏することができました。この文章を書いている今は、3月27日開催に向けて定期演奏会の準備を進めている真っ最中です。2020年度は曲数、観客数を減らし、短時間小規模で例年より縮小した形での開催になってしまいました。2021年度は曲数も増やし、2020年度より多くのお客様に聴いていただこうと準備を進めています。2021年度は、コロナ禍前の活動状況からはまだ遠いものがありますが、それでもお陰様で徐々に通常の活動状況に戻りつつあり、部員たちも活動・音楽を楽しんでいます。2022年度も自分たちも楽しみながら、聴いている方々を楽しませる演奏を披露していきます。これからも応援宜しくお願いします。

〈2021年度活動実績〉

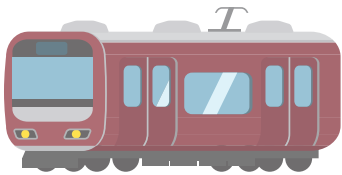
- 4月 新入生歓迎演奏会
- 8月 第61回東京都高等学校吹奏楽コンクール C組銀賞
- 12月 クリスマスコンサート
- 第45回東京都高等学校アンサンブルコンテスト銅賞
- 3月 第8回定演奏会

(中止)

鉄道研究部

令和三年度は三年生八名、二年生三名、一年生二名の合計十三名の部員で活動しました。近年では、おもな活動内容として学園祭に向けた大型レイアウト製作やNゲージ車両製作、部員が持ち寄っての鉄道模型運転会など、月曜、火曜、木曜の週三回の活動を行っています。本年度はコロナ禍の中で、活動できる日数は限られたものになりました。その中で、学期当初は学園祭に出席するムービー作りを行いました。また、並行して毎年参加している全国高等学校鉄道模型コンテストに向けて作品の製作を行い、本年度も作品を出展しました。作品は横須賀線の田浦駅から横須賀駅をイメージし、できるだけ忠実に山の再現、海の再現をしています。作品製作にはだいぶ苦勞をしましたが、その甲斐があつてか、ベストプレゼンテーション賞を受賞することができました。本年度も部員たちは多くのことを学べたと思います。

「撮り鉄」の部員も増え、個人で積極的にコンテストに応募するケースも出てきています。伝統を大切にしながらも、部員の興味・関心に合わせて活動内容も少しずつ変化し続けていきます。ぜひOBの皆さんも機会がありましたら、本校の鉄道研究部にお立ち寄りください。お待ちしております。

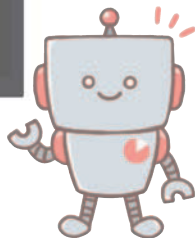


ロボット研究部

この2年間については所属する部員が1名のみであった他、COVID-19流行の影響もあり、例年のように競技会に出場するといった活動ができませんでした。校内においてロボット製作を継続的に行いました。

ロボットの製作にあたっては引き続きLEGO Mindstorms を利用しています。近年ではScratch を利用したプログラミングを経験している小中学生が増えてきており、今後の活動ではこれを活用したロボットの制御にも取り組むことを検討しております。

(鈴木徹)



パソコン研究部

昨年度はコロナの影響で活動自粛・見合わせて大幅に制限されており、非常にもどかしい思いをしていました。今年度も9月にオンライン授業・分散登校期間がありましたが、だいぶ以前に近い形態・時間で活動できるようになりました。週に3回、放課後に2時間半ほど、パソコンを使った創作ならばほぼなんでもOK。これまではツールや素材を使用したゲーム制作が圧倒的に多かったのですが、今の世代はペンタブレットによるデジタルイラストや、3Dグラフィック、動画、音楽などの創造に取り組む生徒が増えたように思います。

「こんなことやってみよう」と積極的に言ってくるので、最初の導入的なところだけ少し教えると、あとはネットで調べたりもしながらどんどん使い方を覚えて高度なこともできるようになっていきます。生徒たちの吸収力、成長を頼もしく感じます。



スマホやタブレットが普及し、生徒たちの多くがiPadを所持するようになってパソコンの立場もだいぶ変わってきました。場所を選ばずすぐ使え、様々な用途をそつなくこなせるタブレットはもちろん魅力的ですが、パソコンはインプットとアウトプットを同時並行でできるのがメリットですね。また、部員同士で知識や技術を共有し、刺激し合える部活動はとても価値のある場時間になっていると思います。これからも生徒たちに創造の楽しさを伝え、成長を見守りたいと思います。

(顧問 石川昌広)

自動車部

● WORLD GREEN CHALLENGE 2021 ソーラーカーラリー(旧 W・S・R・in 秋田)

8月に秋田県大潟村で行われる大会で1日約8時間を3日間走行する競技。

● HONDA エコマイレージ チャレンジ 2021 全国大会

10月に栃木県ツインリンクもてぎサーキットで行われる燃費競技。1ℓのガソリンの走行距離を競う大会。

● Ene-1GP MOTEGI

2021 11月に栃木県ツインリンクもてぎサーキットで行われる単三型乾電池40本を使ってLAPタイム・90分の周回数を競う大会。

令和3年度はコロナウイルス感染防止のためソーラーカーレースは不参加、HONDAエコマイレージ全国大会は中止となりました。その中、令和3年11月14日(日)『コロナ禍の中でも懸命に活動を続ける生徒たちになんとか走る機会を与えてあげたい』と願う有志教員の集まりにより、NATS自動車大学校の全面協力のもと、実現できた走行会で東京・千葉・埼玉より20台が参加しました。今後の活動の課題や取組みにとても参考になった有意義な走行会でした。来年度もすべての大会に出場予定です。より上位を目指して大会に挑みたいと思います。応援よろしくお願致します。



模型部

令和3年度、模型部は新入生5名の入部を受けて9名体制となり、活動にも力を入れることができました。新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、学園祭での模型展示は不可能となってしまいました。学校説明会の文化部展示スペースにて、多くの作品を展示させていただきました。部員一同、毎回の展示を学園祭本番と思って腕を競い、各々納得のいく模型を展示することができました。また夏には、大田区立矢口小学校のサマースクールに参加し「古代のアクセサリを作ろう」と題して、ろう石を用いた勾玉作り体験の手伝いをさせていただきました。夏休みに事前に部員たちと、勾玉作りの練習を行い、どのように小学生たちにわかりやすく説明するのかを考えて当日を迎えました。新型コロナウイルスの影響で、参加は部員の半数である2年生のみとなりましたが、おおむね好評を博すことができました。このような状況ではありませんが、部員たちは状況が好転したらジオラマ作りもしていきたいと意欲を燃やしています。今後の模型部の活躍にご期待ください。



書道同好会

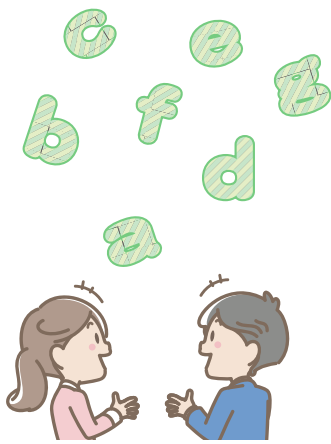
2021年度は新入部員の確保が叶わず、3年生2名、2年生2名の計4名で細々とスタートしました。7月に3年生の引退後は2名の2年生女子だけの活動でしたので、「後輩がほしいです」と寂しそうだった彼女たちには少々辛い思いをさせてしまっただかもしれません。おまけに新型コロナウイルス感染症の影響で活動自体も自粛せざるを得ず、クラブ活動を通しての思い出作りも十分に出来なかったのもとても申し訳なく感じています。それでも年度前半は半切作品を仕上げ、オープンスクールや学校説明会のクラブエリアに展示するなど、学校のための活動は少なからずできたのではないかと思っています。ただ残念だったのは、例年参加している「学外コンクール」への参加を、オミクロン株の流行によって見送らなければならなかったことです。参加することに意義があるとも言いますが、そんなに生易しいコンクールではないので、十分な練習もしていない作品を出品するのは憚られるというのが不参加の理由でした。しかし2022年度はこの悔しさを忘れず、なんとか工夫して1年生を部員として迎え入れ、捲土重来を期すべくがんばりたいと思います。今後とも書道同好会へのご支援ご鞭撻のほど、よろしくお願致します。

ESS同好会

ESS同好会は令和3年度設立の同好会です。ESSはEnglish Speaking Societyの各語の頭文字を取ったものです。活動初年度ですが一年生三名が入部してくれました。

週二日、ALTのJawan Thompson先生も毎回の活動に参加してくださり、英会話のテクニクを学んだり、実践してみたり、様々なトピックについて英語で意思疎通を図ろうしたりしています。日本の外に出たらシャイでまだ何も話せないであろう三名ですが、多少の遠回りしながらも物怖じせず、自分の思いを自分の英語で伝えられるようにしたいです。

そんな恥ずかしがり屋の三名も、学校説明会がある時に開催された中学生対象のクラブ体験では、立派な先輩として未来の後輩を優しくリードしてくれました。最初は緊張していましたが、回数を重ねるにつれて頼もしい表情を見せてくれました。二年



生になってもしっかりとやってくれるであろうと想像を膨らませています。

世間一般的にESSは、スピーチ、ディベート、ドラマのコンテスト出場を目指しています。来年度は何かしらのコンテストに応募し、出場をすることを目指し活動したいと思います。大森学園の英語教育の新たな一面として努力して参りますので、今後とも応援をよろしくお願い申し上げます。

ハンドメイド同好会

今年度は1名の新入部員を迎え入れ、3年生3名、2年生7名、1年生1名の計11名での活動を行いました。被服製作では昨年度から引き続き、スカートやクロスステッチ、ドレスの製作を行いました。コロナ禍において活動の制限があり、例年参加しているおもちやコンテストやお弁当甲子園への参加はできませんでした。しかし「おうち時間」を更に有意義なものにできるよう簡単なお菓子作りを始め、各々が興味のある



るスイーツづくりをできるよう、調理分野の活動を行いました。密にならずに、また感染症対策をしながらの活動に最初は苦闘しましたが、生徒達自らが新しい案や対策を考え、最小限のコミュニケーションでも作業が円滑に進むよう、工夫を凝らしてくれました。日々成長していく生徒と共に来年度も更なる発展を目指して活動していきますので、今後も変わらぬ応援、ご支援をよろしくお願い申し上げます。

車いすメンテナンス

かつて「空飛ぶ車いすプロジェクト」で修理した車いすを海外に提供する活動を盛んにやっていたのですが、近年はコロナの影響で思うように海外と提携することが難しくなっていました。

令和3年度は1年生と3年生一人ずつの少数ではありますが、メンテナンス技術を後世に残すべく、多くの車いすのメンテナンスを行いました。部員は全員工業科なのですが、普段授業で学んでいる機械構成部品の知識で社会貢献できることに意義を感じています。今年も、中学生向けの体験教室で車いすメンテナンスを行い、楽しんでもらいながらボランティア活動の意義を感じてもらっています。今後は、情勢にもよりますが日本国内で車いすメンテナンスを求めている団体と提携し、活動を続けていこうと思います。

(顧問 大場 勇輝)

放送演劇同好会

新型コロナウイルスの影響で令和3年度は全く活動ができませんでした。新学期を迎え、活動に意欲的な新入部員が7名加入しました。発声練習から始まり、腹筋背筋などの筋力トレーニング、そして朗読練習など2時間程度の練習を行っています。オープンスクールのオープニングイベントの司会や入試説明会の司会、学園祭・体育祭とこれから大忙しです。活動開始から間もないのでNコンの出場は見送りましたが、大会出場に向けて頑張っています。



令和3年度進路報告

進路指導部長
尾島 覚

より、令和3年度卒業生の進路状況をご報告させていただきます。

今年度は全体で272名が卒業しました。就職13%、4年制大学62%、専門学校20%

普通科進路状況

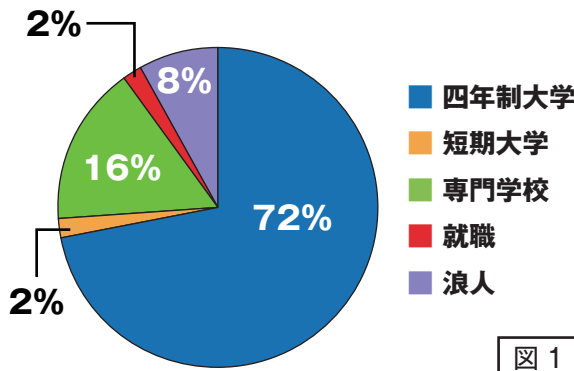


図1

工業科進路状況

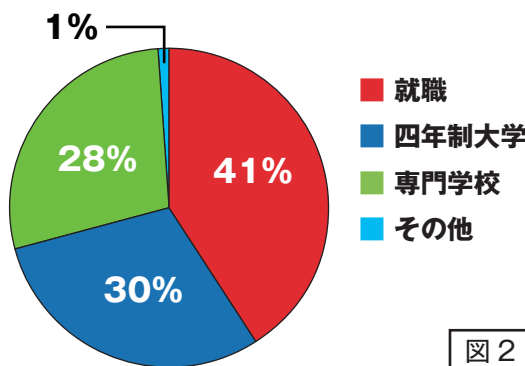


図2

という結果でした。普通科は198名の生徒が卒業しました。大学72%、短大2%、専門学校16%、就職2%、という結果でした。(図1) 工業科は74名の生徒が卒業しました。就職41%、4年制大学30%、専門学校28%という結果でした。(図2)

表1

国公立大学	人数	私立大学	人数
東北大学	1	東京理科大学	4
東京都立大学	1	上智大学	2
長野県立大学	1	明治大学	7
兵庫県立大学	1	青山学院大学	3
北九州市立大学	1	中央大学	6
川崎市立看護大学	1	立教大学	5
		法政大学	4
		他 多数の大学に合格	

今年も、大学による定員の厳格化の波に押し寄せられました。が、昨年の実績を上回る結果となりました。(表1) 一重に生徒の努力と先生方の熱い進路指導のおかげで昨年度以上の結果となりました。今後とも引き続き努力し、生徒たちと共に力をつけていこうと考えています。

就職では、機械関係で、日立ビルシステム、エバラ物流、自動車関係で日産自動車、電気関係で、関電工、三英電業、EXCEL WORKS、鉄道関係で京浜急行電鉄、東京地下鉄、その他として京浜急行バスなどへの合格者が出ています。



今年度も、生徒のための進路指導部として、生徒たちの夢実現の手助けをさせていただきます。と思っております。

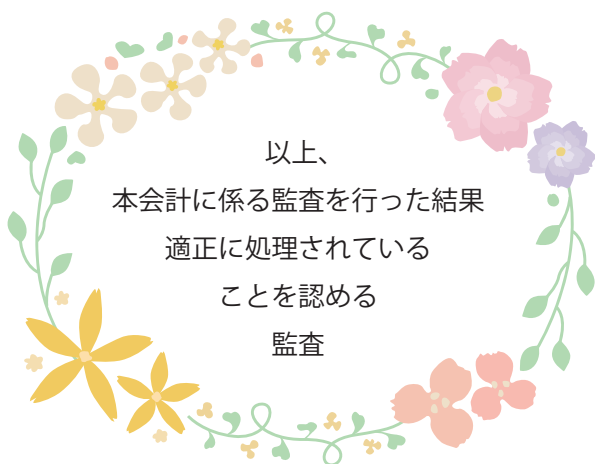
令和3年度 もりこう会 決算書 (自:令和3年4月1日~至:令和4年3月31日)

収入の部 (単位:円)

科目	予算	決算	差異	摘要	
会費等収入	① 1年生会費収入	712,800	709,800	3,000	2,366 人月分
	② 2年生会費収入	813,600	811,600	2,100	2,705 人月分
	③ 3年生会費収入	2,284,800	2,285,500	▲700	3,265 人月分
	④ 寄付金収入	300,000	399,000	▲99,000	1 件
	⑤ 受取利息収入	3,000	275	2,725	普通及び定期預金利息
	⑥ 過年度会費収入	0	0	0	
	⑦ 雑収入	1,000,000	0	1,000,000	
当年度収入合計	5,114,200	4,206,075	908,125		
前年度繰越金	4,195,646	4,195,646	—		
収入の部合計	9,309,846	8,401,721	908,125		

支出の部 (単位:円)

科目	予算	決算	差異	摘要	
学校等補助費	① 設備補助費	0	0	0	
	② 行事補助費	200,000	50,000	150,000	体育祭補助 50,000 円
	③ 課外活動補助費	300,000	0	300,000	校友会へ補助 / 令和4年度に 600,000 円補助
	④ クラス会援助費	100,000	10,000	90,000	1 件
	⑤ 卒業記念品費	400,000	0	400,000	卒業証書ホルダー購入 令和4年4月15日支払
	⑥ 地域活動補助費	50,000	0	50,000	実施なし
	⑦ その他の補助費	100,000	0	100,000	実施なし
運営費	① 会報発行費	3,500,000	3,781,542	▲281,542	会報誌発行・印字サービス郵送料含む
	② 総会費	600,000	0	600,000	実施なし
	③ 卒業生広場	100,000	0	100,000	学園祭卒業生広場経費 (文化祭実施なし)
	④ 会議費	200,000	0	200,000	実施なし
	⑤ ホームページ維持費	150,000	107,800	42,200	(株) KDDI ウェブコミュニケーションへの支払
	⑥ 交通費	400,000	144,000	256,000	役員会交通費として
	⑦ 事務局費	50,000	0	50,000	実施なし
	⑧ 慶弔費	200,000	36,500	163,500	香典 2 件 生花 1 件
	⑨ キャリアセミナー運営費	200,000	0	200,000	実施なし
	⑩ 拡大幹事会費	300,000	0	300,000	実施なし
	⑪ 雑費	50,000	17,485	32,515	寄付金払込手数料他
	⑫ パソコン等購入費用	120,000	72,248	47,752	同窓会用パソコン購入
予備費	100,000	0	100,000		
積立金	① 同窓会維持積立金	1,000,000	1,000,000	0	
	② 記念事業積立金	1,000,000	1,000,000	0	
当年度支出合計	9,120,000	6,219,575	2,900,425		
次年度繰越金	189,846	2,182,146	▲1,992,300		
支出の部合計	9,309,846	8,401,721	908,125		



令和3年度 もりこう会寄付金(敬称略)

令和3年度 潮の光奨学基金寄付金(敬称略)

本誌では掲載しております

寄付者の皆様、ご協力ありがとうございました。

訃報 須山貴史さんを悼む



もりこうじ 会長
大谷正勝

なり、その評価は独り立ちに向けての原動力になったようであります。

その後の彼のプロカメラマンとしての活躍の様子は、TV、著書などを通してご存知の方も多いのではないのでしょうか。

須山さんはこのように本業に忙しいなか、その合間を縫って役員仲間と活動に携わり「もりこう会」の維持、発展に尽くしてくれました。

その一つは、3年前の2019年母校は創立80周年を迎えましたが、本会はこの時機にあたり通常総会後、祝賀行事としてトークショー並びに祝宴を催すことにしました。

トークショーは祝賀の席に相応しく、かつ来場の皆さんに楽しみ喜んでいただけることを念頭に、出演者の人選等を進めることとし、人選は仕事を通して幅広い人脈を持つ須山さんをお願いしました。

その結果、日頃から交流があり第一線で活躍中のお笑いコンビWエンジンのチャンカワイさん、キャスター・新聞マイスターである小森谷徹さんお二人に出演を依頼したところ、即快諾してくださいました。当日は3人の息のあったテンポと話術でトークショーは盛り上がり、参加者を魅了する1時間でした。

その10年前の母校創立70周年記念の祝賀会においても、カメラマンとして極北の地



▲ 80周年記念トークショーの様子

から熱砂の砂漠にいたる多くの国々を訪ね、その際に撮影した主に水中写真を「海からの贈り物」というテーマで披露され、その時々体験を熱く語ってくれました。そのほか学園祭における「卒業生の広場」での活動等、須山さんの思い出は尽きません。

このように常に前向きに本会諸活動に関わり、労をいとわず汗を流し会の運営に尽くしてくれました。役員を代表して厚く御礼申し上げますとともに、心からご冥福をお祈りいたします。

元写真部顧問

尾形賢一

クリスマスのイルミネーションが街を彩り始めたころ須山貴史くんの訃報が頂いた。俗な表現になるが一瞬わが耳を疑った。彼は心身共に屈強で死からは最も遠いところに位置する男だと思っていたから。

昭和53年電気科入学とともに写真部に入部。当時の部員はまだまだ写真に対しての意識も低くその中であって彼は一人きわだっていた。行動的な彼の傾向は学年が上がるにつれ強くなり、三年生の時には彼が生まれ育った川崎の社会的な問題を追うまてになっていた。学園祭の写真展の作品も他の部員とは一線を画していた。また彼はワンダーフォーゲル部にも所属し、担任で顧問の田村先生達との山行を楽しんでいた。本校卒業後は東京写真専門学校（現在東京ビジュアルアーツ）に進学し、研究室で水中写真を学び、その後水中造形センターに勤務。フリーランスの写真家として独立してからはTVの仕事等で多忙のなか本校にも折に触れ顔を出してくれ、在校生に対して進路に関する講話や新校舎完成のおりにはモルディブやパラオで撮影した写真を寄贈してくれた。また近年は『もりこう会』の役員として同窓会の発展に貢献してくれていた。

最後に『イッテQ』とともに仕事をしていたチャンカワイ氏のオフィシャルブ

ログより文章を紹介し、須山貴史君の冥福を祈る。

『僕のバディ』

水中カメラマンとして超敏腕の須山貴史さんが先日お亡くなりになりました。

イッテQ水族館プロジェクトでは大変お世話になった方でした。ダイビングをしている方なら分かると思いますが、水中で撮影するのは至難の業です。世界の海の絶景を美しいワークでバッチリ撮りながら、僕がどこでどんな作業をしているかも絶妙なアングルで捉えて、更には海洋生物の自然な姿を毎度映してくるとんでもない天才でした。そして何より僕の命をずっと見守ってくれたバディでいてくれました。何度も何度も困難があり、何度も何度も海が怖くなってしまったのですが、その度に須山さんは何度も海も海も素晴らしさを教えてくれて、海のことを大好きにさせてくれました。

とても素敵な海の映像とお魚の美しい暮らし、そこにチャンスのヘッポコを楽しむ。あの構造は須山さんのおかげでした。命の恩人です。心より感謝の気持ちと哀悼の意を表し、御冥福をお祈りいたします。



須山さんありがとう。ずっと世界を飛び回っていたんだから、49日ぐらいいはご家族とゆっくり過ごさなければ。



▲70周年記念講演会「海からの贈り物」

新役員紹介

平成十二年三月電気科卒業
常任幹事 網川英樹



平成12年電気科卒業の網川です。現在は、地下鉄の車掌という仕事をしていきます。

プライベートでは、平成22年に妻と入籍し、子供3人に恵まれ、もりこう会の役員をやりながら、子どもたちが通う小学校のPTA会長を務めさせていただいております。

もりこう会の役員の話をした際は、大森学園高校に恩返しする気持ちで承諾しました。

またそれとほぼ同時期に小学校のPTA役員の話をしたとき、いつもお世話になっている学校関係者の方や地域の方々へ協力すべく承諾することにしました。

両方の役員をやることで、これから担当子どもたちのために自分がこれから何をすべきか検討し、地域の安全や子

どもたちが安心して学校生活を送れるようにサポートしながら、大森学園に恩返ししていくという覚悟で役員を努めたいと思っています。

高校時代は、小さい頃から鉄道が大好きで、車掌の仕事に憧れていたため、マイクに向かって喋ることに興味を持っていました。ですのでアマチュア無線部や放送委員会に所属しました。鉄道研究部にも少しの間だけですが所属していましたが、自分は『何かを作る』というのがどうしても苦手でしたので、アマチュア無線部のある先輩に誘われ、アマチュア無線部に所属変更しました。

そしてまだ声変わりをしていなかった自分は、体育祭の際に進行役として放送を行った際、男子校なのに女子がいると勘違いされ、周りの生徒達が放送席に行ったら網川だったと残念がられました(笑)

2年生で電気科に進んだ自分は、担任の尾形賢一先生や、電気科担当でもあり部活顧問でもある柗山良一先生をはじめ、電気科職員の先生方に大変お世話になることとなり、大森工業高校に入学してよかったと思うようになりました。

その繋がりは実は今でも続いていて、自分が仕事中に尾形先生と出会ったり、柗山先生と年賀状で繋がったりしています。

また自分の結婚式の際には、尾形先生や柗山先生にも参列していただきました。

大森工業高等学校を卒業後は、東京観光専門学校へ進学し、専門学校卒業後は、色々な社会経験を経て、現在の東京地下鉄株式

会社（東京メトロ）にて車掌として現役で
仕事しています。

車掌という仕事を始めてから数年後、大
森学園高等学校に生まれ変わった学園祭に
お邪魔した際に尾形先生から『キャリアセ
ミナー講師をやってみないか』というお誘
いをいただきました。

自分が講師という立場で生徒達の前で話
すことは初めてだったこともあり、少し戸
惑いしましたが、今までお世話になった尾形
先生からのお誘いであれば断ることはでき
ないと思ったのと、色んなことにチャレン
ジしてみたいと思い、講師役に挑みました。
当日は、かなり緊張してしまいました。が、
車掌という仕事が多様な仕事か、旅客を目
的の地まで安全に輸送する使命を担っている
仕事だということをお話させていただきました。

鉄道に興味のない生徒にも話がわかるよ
うに伝える難しさは、すごく難易度が高く、
どう話をするかによつては、楽しくもつま
らなくもしてしまう…そんな仕事をしてい
る先生たちはすごい！と改めて感じてしま
いました。

ただただ緊張だけで終わった初めての
キャリアセミナーでしたが、それから数回
ほど呼んでいただいたのはありがたく感じ
ました。

仕事でも、後輩たちに仕事の大変さや大
切さを教えるのは大変で、どう指導すれば
後輩が成長していくか、自分自身日々勉強
しながら職務を遂行しています。

やはりそう思うと、指導する立場の、先

生、という仕事は大変だなあと思ひ、お世
話になった先生方に恩返ししていく気持ち
で、もりこう会役員を遂行していきたいと
思います。

仕事の都合やPTA行事の関係で役員会

編集後記

会報「もりこう」の発行

平成十四年三月電気科卒業
広報委員長 渡辺亮



同窓会活動にご支援・ご協力を賜り
厚く御礼申し上げます。

令和四年の通常総会開催について会
報発行直前まで検討を重ねて参りまし
た。この結果本年は通常総会のみを開
催する事となりました。この関係で本
会報の発行並びに皆様への到着が遅れ
ました事をお詫び申し上げます。
今号ではクラブ活動紹介等を中心に

に参加できないときも多々あるとは思いま
すが、お世話になった大森学園高等学校の
ため、積極的に役員活動へ参加していきた
いと思っております。よろしくお願ひします。

コロナ禍でも、生徒の皆さんが活躍し
ている姿がご覧頂ける内容になりました。
また、紙面の通り、本会監査であ
りカメランとして活躍された須山貴
史さんが昨年十二月に逝去されました。
須山さんには生前、会報の写真撮影に
ご協力頂きました。今号でも二ページ
の大谷会長の写真、三ページの校長先
生の写真、編集後記の私渡辺の写真は
須山貴史さんが撮影した写真を使わせ
て頂いております。私にとつてもとて
も頼りになる先輩で、この同窓会報「も
りこう」の構成には須山さんのアドバ
イスが活かされております。私自身ま
だ逝去した感覚がなく「海外に撮影旅
行に行っているのではないかと錯覚
してしまいます。でも今号を製作しな
がらいつも相談する須山さんがいない
ので、とても悲しい気持ちでいつぱい
になりました。須山貴史さんに改めて
感謝申し上げますと共に、ご冥福を心よ
りお祈り申し上げます。

結びに皆様のご健勝とご多幸をご祈
念申し上げます。ありがとうございました。

もりこう会ならびに奨学基金へのご支援ご協力のお願いについて

会長 大谷正勝
他役員一同

会員の皆様には、平素より本会諸活動に温かいご支援ご協力をいただき誠に有難うございます。
コロナ禍に覆われて足かけ3年となりました。この間コロナウイルスは変異を繰り返して今日では感染力が強いとされるオミクロン株の別系統 BA.2 が多くの国々同様に国内でも支配的になりつつあるようです。このように依然として予断を許さない状況が続いておりますので、会員各位におかれましてもくれぐれもご自愛ください。
さて、もりこう会（以下本会と称す）では会報送付時に「本会」ならびに「潮の光」奨学基金へのご支援をお願い致しております。この度も恐縮ではございますが、倍旧のご支援ご協力を賜りますよう、役員一同心よりお願い申し上げます。

- 指定の払込取扱票（赤色）を使用し郵便局窓口・ATMで「ゆうちょ銀行口座の通帳・カード」扱いでの払込は払込手数料が無料になります。現金での払込の場合、現金扱いの手数料がかかります。ご注意下さい。
- 同窓会報寄付者名簿への掲載を御希望されない方は払込取扱票に一筆御記入をお願い致します。